

## リハビリテーション科

リハビリテーション科部長 坂根正孝

### ◆ 診療体制と患者構成

#### 診療科スタッフ

リハビリテーション科医師：2名

理学療法士：31名（病院：26名、老健：3名、訪問：2名）

作業療法士：12名（病院：10名、老健：2名）

言語聴覚士：8名（病院：7名、老健：1名）

視能訓練士：2名

#### 指導医・専門医・認定医等

坂根 正孝：日本整形外科学会認定医・専門医、日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術・技術認定医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医、日本リハビリテーション医学会指導医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導医

作田 直記：日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本整形外科学会認定リウマチ医

#### リハビリ専門職の資格等

茨城県介護予防リハビリテーション専門職指導者	10名
がんのリハビリテーション研修修了	15名
3学会合同呼吸療法認定士	4名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1名
腎臓リハビリテーション指導士	1名
福祉住環境コーディネーター2級	6名
臨床実習指導者研修修了	11名

#### 外来診療実績

表1 参照。

#### 入院診療実績

表2 参照。

### ◆ 診療科紹介（概要）

リハビリテーション科は整形外科疾患を中心に、小児疾患、各外科の術後の早期リハビリテーション、脳血管障害・消化器・呼吸器・循環器・腎・リウマチ等の内部疾患で入院中の方に、臥床に伴う筋力低下の予防や、早期離床・早期退院を目指し、理学療法、作業療法、言語・摂食・嚥下訓練等、を行っている。また疾患・ステージとも多岐に渡っているため、専門チー

表1 外来診療実績

上段：患者数（人）  
下段：点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	550	486	550	532	514	448	504	555	547	479	466	582
	243,695	219,363	242,128	234,350	230,130	203,605	231,784	246,889	245,455	218,860	219,900	260,315
OT	357	307	399	400	327	349	408	423	491	469	452	452
	166,292	153,568	188,368	187,188	153,713	158,610	189,885	198,370	229,760	222,070	218,095	227,910
ST	100	99	135	125	124	111	138	126	119	129	133	132
	69,100	67,760	93,990	81,295	82,585	73,220	90,855	92,590	86,145	85,240	88,115	117,695
												12,518人
												6,118,893点

表2 入院診療実績

上段：患者数（人）  
下段：点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	2,682	2,620	3,266	3,306	3,319	3,182	3,296	3,178	3,196	2,788	2,832	3,698
	1,205,825	1,248,670	1,693,398	1,629,030	1,663,740	1,607,425	1,589,440	1,534,595	1,566,380	1,344,552	1,332,637	1,686,985
OT	847	880	1,304	1,209	1,212	1,118	1,118	1,086	951	761	786	943
	382,070	413,270	614,030	556,180	557,448	521,885	523,741	510,250	435,405	338,611	353,829	433,217
ST	354	297	447	511	519	486	592	665	679	559	535	756
	144,795	120,925	203,950	233,900	218,150	217,425	244,570	293,220	297,065	245,560	240,090	297,043
												55,978人
												26,499,306点

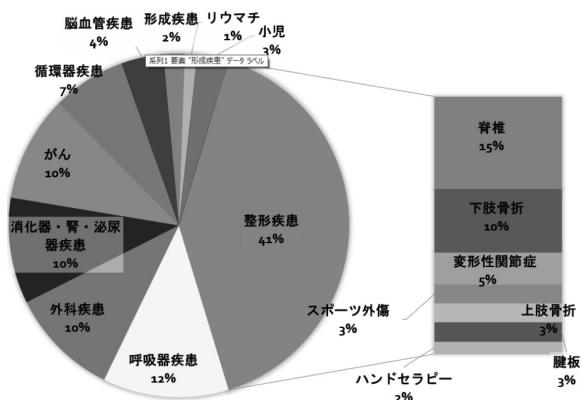
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

ムにてそれぞれの分野に特化した対応を目指している。チームとして充実した医療を推進するために他職種との連携を重視し、定期的なカンファレンス・症例検討会、退院前自宅訪問、家族への介護指導なども併せて行っている。

病院のみならず、在宅への支援部門として介護老人保健施設そよかぜ・訪問看護ステーションそよかぜ・筑波学園病院訪問リハビリテーションがあり、協働して退院後の安心した生活支援が行えるよう多職種での連携強化・地域への貢献に力を入れている。

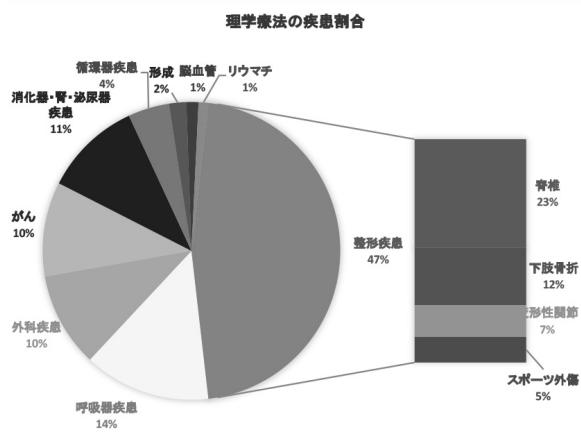
またリハビリテーションの視点からの公開講座にも力を入れており、地域住民の方々の健康増進に貢献していきたい。

### 【リハビリテーション科疾患割合】



### 診療する主な疾患

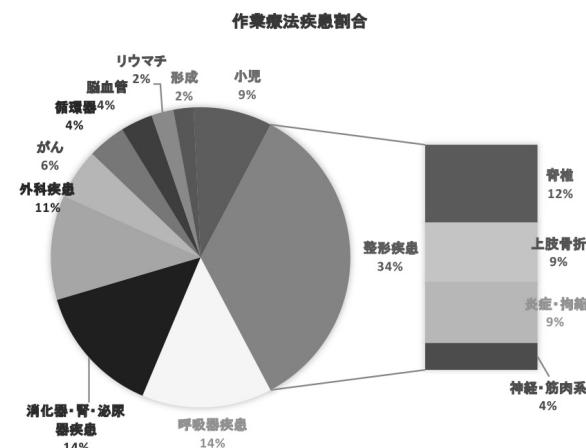
#### 【理学療法】



内科から外科系疾患まで早期介入・早期離床を目指してリハビリをしている。整形疾患では脊椎・人工関節に加え、スポーツ外傷後のリハビリにも力を入れている。

日常生活に必要な基本動作を「どうすればできるか！」を考えながら取り組んでいる。

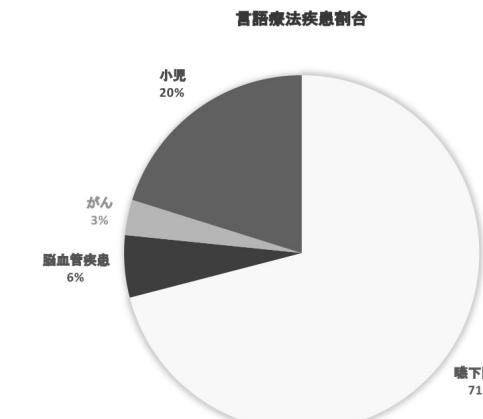
### 【作業療法】



急性期の中での作業療法士として病棟で実際に生活動作を行う環境において介入や動作指導を行うほか、療養環境整備のために自宅訪問も積極的に行い、退院後に安心した生活を送れるように支援している。

外来では上肢の機能障害やスポーツリハ、就学前の発達障害児を対象とした小児リハも実施している。

#### 【言語聴覚療法】



呼吸器疾患や脳血管疾患の後遺症による摂食嚥下障害に対して早期介入・早期予防に力を入れている。また外来では就学前の発達障害・機能性構音障害・学習障害等、幅広い小児領域を診ている。

### ◆ 学会発表・論文など

#### 第25回茨城県理学療法士学会

演者 山口真吾

テーマ 高校野球における傷害発生分析～季節別の違いに着目して～

概要 高校野球選手を対象にスポーツ活動を休止するTime Loss傷害(TL傷害)と休止しないNon Time Loss傷害(NTL傷害)の季節別での傷害発生状況を調査した。TL傷害は上肢優位、NTL傷害は下肢優位に傷害発生が

多かった。全傷害において試合期の夏季が全体の35%の割合を占め、冬季は夏季について傷害発生数が多く、上肢の傷害発生もみられた。シーズンを通した肩周囲のコンディショニングが重要と考えた。

#### 第25回茨城県理学療法士学会

演者 矢野孝輔

テーマ シュート動作時の足関節痛への介入～既往歴の把握により主訴の解決に繋がった例～

概要 数年前から左足関節の捻挫を繰り返しており、1年前の受傷後からリハビリを継続しているがno-contactでも違和感が強く練習に参加できていなかった。問診より6年前に右肩関節の亜脱臼歴があり、診断だけでリハビリを受けなかつたことが判明した。シュート動作に肩関節亜脱臼が影響を及ぼしていると考えアプローチした。肩甲骨内転トレーニングを取り入れることでMKF時の体幹右側屈が改善し、内果後方の疼痛・恐怖感が消失した。本症例より下肢疾患であっても上肢の既往歴を細かく聴取する必要性を再認識した。

#### 第34回日本臨床整形外科学会学術集会

演者 小林貴太

テーマ 腰部骨盤帯のアライメント修正により術後残存する間欠性跛行の改善に至った一症例

概要 腰椎すべり症を合併した腰椎椎間板ヘルニアの術後間欠性跛行が残存した症例を担当し、歩行時におけるアライメントに着目しアプローチを行った結果、間欠性跛行の改善に至ったので報告した。立位での不良アライメントから、歩行時にトレンデレンブルグ徵候の出現により左椎間孔の狭小を増強し、左神経根の絞扼による疼痛を生じていると考えた。そのため、立位・歩行時のアライメント修正を目的にアプローチを行い、症状の改善に至った。術後残存する完結跛行に対しては、その時の姿勢を再度詳細に評価・分析してメカニズムを考察し、適切に評価を行うことで改善する可能性があることを再認識した。

#### 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会

演者 関田亮太

テーマ HOT導入の再指導を通して職場復帰につなげられた症例

概要 在宅酸素療法（以下HOT）の自己中断から呼吸状態が増悪して入院となり、入院中の介入を通してHOTの導入だけでなく職場復帰につなげられた症例の報告を行った。今回は

自己中断理由の考察と定着させるための方法を検討し、6ステップメソットを基に介入を行い、退院後はHOTを導入した状態での仕事復帰に繋げることができた。個々の中止理由への着目と自己効力感の向上が重要と考えた。

#### 茨城県理学療法士会 新人症例検討会

演者 宇津野真美

テーマ 呼吸器疾患者に対する金持久力トレーニングとトイレ動作・呼吸苦指導により運動耐容能改善とトイレ動作獲得につながった症例

概要 ANCA関連血管炎と慢性閉塞性肺疾患を呈し、呼吸苦が強くADLが低下していた患者に対し、呼吸方法とトイレ動作方法に着目して介入を行ったことで、トイレ動作が獲得できた症例の報告を行った。呼吸苦により低活動を呈しやすい患者に対して、筋持久力トレーニングと並行して呼吸方法と動作の指導を行うことで、呼吸困難感が軽減し、ADLの改善につなげることができたと考えた。

#### 茨城県理学療法士会 新人症例検討会

演者 小島悠太

テーマ 自覚的呼吸苦が強く臥床時間が延長している症例～呼吸効率に注目して～

概要 特発性肺線維症の患者に、呼吸効率や身体機能に注目したアプローチを行い、自覚的呼吸苦の改善を認めた症例の報告を行った。元々の胸郭の硬さや日中臥床による廃用的な要素、さらに日常的な呼吸促拍に伴う努力的呼吸により、二次的な胸郭の硬さに対して、ストレッチポール、口すばめ呼吸、自転車エルゴメーターは呼吸効率を改善させ、自発的呼吸苦の軽減に有用であったと考えた。

#### つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会

演者 綿引悠太

テーマ 「低酸素血症を防ぎながら買い物ができる」とを目指した症例—セルフモニタリングに着目して—

概要 重度の慢性閉塞性肺疾患（以下COPD）を伴う肺結核患者に対し、呼吸様式の改善とセルフモニタリング下での酸素化を維持した歩行が獲得できた症例の報告を行った。自覚症状がない患者に対して、呼吸状態、パルスオキシメーター等を用いて患者自身で観察し、早期に体調変化を捉えることができるよう指導したことで、酸素化を維持した歩行獲得に繋げることができた。セルフモニタリングの

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

診療部

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

教育が非常に有効であったと考えた。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 松本一香

テーマ 動作分析により病棟トイレでの排泄を獲得できた症例

概 要 入院をきっかけにトイレ動作困難となった患者に対し、動作分析による問題点の抽出を行い、トイレ動作の獲得に繋がった症例の報告を行った。動作分析を通して問題点を明確化することで、起立動作と立位姿勢保持の2点に絞ったアプローチを行うことができた。動作分析による原因の明確化により、効率の良い介入が行えたと考える。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 杉山絢菜

テーマ トイレ動作獲得に向けてのアプローチ～リハビリテーションの環境に着目して～

概 要 リハの環境を変えることによってトイレ動作が見守りで行えるようになった症例の報告をした。リハ室で行ったトイレの模擬動作練習では本人の混乱が見られ思うように介入が進まなかつたが、実際の環境で行うことで練習に積極的になった。生活場面でのリハを取り入れ、本人のイメージをわかせることが重要であると考えた。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 平井翔一朗

テーマ 具体的数値を用いたADL指導によって行動変容に繋げた症例

概 要 70歳代の慢性閉塞性肺疾患の増悪患者。ネザルカニューレで安静時1.5L/min、労作時5L/minで使用しており、着座時の息こらえや性急的な動作で動作でSpO2低下していました。そのため、全ての動作にSpO2のモニタリング、休憩の一貫した指導を行った。本症例に携わりADL場面で具体的な数値を示すことで休憩の重要性を理解し、行動変容に繋げられたことを学べた。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 國森遙

テーマ 安定した歩行を目指して～バランス能力に合わせた段階的なアプローチと歩行獲得を通して～

概 要 足底感覺鈍麻・下肢協調性低下により立位バランスが低下した患者に対し、症例のバランス能力に応じた段階的なアプローチ・歩行指導を行ったことで安定した歩行獲得に至った

症例の報告を行った。症例のバランス能力に応じて訓練の難易度を調整したこと、適切な歩行形態を選択したことが安定した歩行の獲得に有効であったと考える。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 倉田大輔

テーマ THA術後患者の股関節伸展制限に対するアプローチ～股関節伸展可動域改善による姿勢・保養の変化～

概 要 THA術後に股関節伸展制限が出現し、デュシアンヌ歩行を呈していた患者に対し、腸腰筋、大腿直筋のストレッチ、マッサージ、殿筋群の筋力訓練を実施した。その結果、股関節伸展可動域が改善し、歩容の改善が見られた。股関節伸展可動域の改善により、殿筋の筋出力が向上したため歩容の改善に繋がったと考える。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 藤本悠人

テーマ 適切な運動負荷で運動療法を実施できることで心不全再発を防止し、ADLが向上した症例

概 要 心不全急性増悪の患者に対して、運動負荷量の設定を行いアプローチすることでADL向上に繋げられた症例を報告した。バイタルサイン、自覚症状に注意しながら有酸素運動、レジスタンストレーニング実施し持久力、筋力向上に繋げた。患者に合わせた負荷量を設定できることでADL向上に繋がったと考える。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 小峰紋美

テーマ 仕事環境の調整によりデスクワーク時間が延長した症例

概 要 今回、頸部痛により座位での作業が連続して行えないことに悩む症例を担当した。作業中の不良姿勢が疼痛に繋がっていると考えた。自宅での作業場の環境調整による姿勢アプローチにより疼痛軽減し作業時間が拡大した。椅子の選定やパソコン画面の位置の変更により頸部への負担を軽減できたと考えた。

#### **つくば地域リハ・セミナー 第31回症例検討会**

演 著 佐藤大樹

テーマ 高齢者の立位アライメントと立位バランスの関係性

概 要 腰椎圧迫骨折・左大腿骨転子部骨折によりアライメント不良が生じた患者に対し、アライ

メントを修正することで立位バランスの改善へつながった症例について報告した。体幹屈曲筋の賦活・足底筋群の筋力強化を実施。その結果立位アライメントが改善し、立位バランスの改善につながったと考えた。

## ◆その他

2021年度は12名の新入職者を迎えて始まった。新卒者の採用が多くかったため、新入職者向けの教育カリキュラムの見直しを行い、それと併せてスタッフの専門教育の強化を目標に専門チーム毎の教育カリキュラムの作成・実施に尽力した1年となった。

2021年度の目標を

- ①専門チームでのスタッフの専門知識・技術の底上げ
- ②1患者への1日当たりの介入の充実
- ③動画の配信による患者教育・地域への貢献の強化(市民公開講座を含む)
- ④感染状況に応じた迅速な対応(感染対策の教育の徹底、指導、行動指針の作成)

として挙げ、取り組みを行った。

依然、新型コロナウイルスの蔓延が続いている中の自分たちの関わり方を見直し、市民公開講座を含めて動画やオンライン配信を活用しての情報発信にも努めることができた。

2020年度に落ち込んだ外来リハビリ患者数は徐々に戻り傾向であり、引き続きリハビリ専門職としての関わり方を今後広げていきたい。